香川県埋蔵文化財センター年報

平成24年度

2013.9

香川県埋蔵文化財センター

は　じ　め　に

香川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、その保存と活用を図り、県民の文化的向上に資するため、昭和 62 年 11 月 1 日に設置されました。

平成 24 年度は、国道 11 号大内白鳥バイパス建設、善通寺病院統合、県道太田上町志度線建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査及び過年度発掘調査の整理、報告書の刊行をはじめ、普及・啓発事業、讃岐国府跡探索事業などを実施しました。また、これらの調査によって得られた多くの成果等をもとに、展示や、広報誌、研究紀要の刊行、学校での出前授業や考古学体験講座を行い、埋蔵文化財の保護意識の普及及び啓発にも努めました。

本書は、これら平成 24 年度に実施した事業内容をまとめたものです。本書が地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いに存じます。

最後になりましたが、ご指導、ご協力をいただいた関係各位にお礼を申し上げますとともに、今後とも当センターの活動に皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 25 年 9 月

香川県埋蔵文化財センター

所 長　真 鍋 昌 宏

目　次

Ⅰ　組織・施設・決算
　1．組織 ……1
　2．施設 ……2
　3．決算 ……3
Ⅱ　事業概要
　1．埋蔵文化財調査事業
　　(1)　事業概要 ……4
　　(2)　山下岡前遺跡 ……6
　　(3)　湊山下古墳……11
　　(4)　仲戸東遺跡……15
　　(5)　旧練兵場遺跡……17
　　(6)　大下（太田原高州西）遺跡……18
　　(7)　多肥北原西遺跡……19
　2．普及・啓発事業
　　(1)　展示……22
　　(2)　現地説明会・地元説明会……23
　　(3)　講師の派遣……23
　　(4)　坂出市立府中小学校との連携事業（よろこび学習）……25
　　(5)　夏休み子どもミュージアム……25
　　(6)　考古学講座……25
　　(7)　文化ボランティア活動……25
　　(8)　四国新聞への連載……25
　　(9)　資料の貸出・利用……26
　　(10)　職場体験学習・インターンシップ……26
　　(11)　刊行物……26
　　(12)　ホームページ……26
　3．讃岐国府跡探索事業
　　(1)　調査事業……27
　　(2)　広報活動……27
Ⅲ　讃岐国府跡探索事業に伴う調査報告……29

挿図目次

第１図　発掘調査遺跡位置図 ……5
山下岡前遺跡
第２図　遺跡位置図（1/25,000）　……6
第３図　建物変遷図 ……7
第４図　遺構配置図 ……8
湊山下古墳
第５図　遺跡位置図（1/25,000）　……11
仲戸東遺跡
第６図　遺跡位置図（1/25,000）　……15
旧練兵場遺跡
第７図　遺跡位置図（1/25,000）　……17
第８図　遺構配置図……17
大下（太田原高州西）遺跡
第９図　遺跡位置図（1/25,000）　……18
多肥北原西遺跡
第10図　遺跡位置図（1/25,000）　……19
第11図　遺構配置図……20
讃岐国府跡探索事業
第12図　讃岐国府跡　調査区位置図……30
第13図　讃岐国府跡　調査区平面・区画想定範囲……32

写真目次

山下岡前遺跡
写真１　山下岡前遺跡、白鳥廃寺跡　空中写真 ……6
写真２　白鳥廃寺跡塔礎石 ……7
写真３　山下岡前遺跡（手前）と白鳥廃寺跡 ……7
写真４　塑像蝶髪出土状況……10
写真５　SB02 ……10
写真６　石棺系竪穴式石室ST02 ……10
写真７　ST02基底石検出状況 ……10
写真８　SH01 ……10
湊山下古墳
写真９　湊山下古墳　空中写真（下が北）……11
写真10　古墳遠景（南西から）……12
写真11　第１主体（下側）と第２主体（上側）……13
写真12　第１主体　勾玉出土状況……13
写真13　第３主体……13
仲戸東遺跡
写真14　仲戸東遺跡全景……15
写真15　SD01　掘削状況 ……16
旧練兵場遺跡
写真16　SD01　掘削状況 ……17
大下（太田原高州西）遺跡
写真17　SH07カマド１検出状況 ……18
多肥北原西遺跡
写真18　Ⅰ区全景……21
写真19　Ⅱ区全景……21
写真20　溝　鉄滓出土状況……21
写真21　噴礫断ち割り（正面）……21
讃岐国府跡探索事業
写真22　30－１トレンチ建物２、３全景……33
写真23　30－１トレンチSD1002、1040全景 ……33

表目次

第１表　職員一覧 ……1
第２表　発掘調査決算 ……3
第３表　整理・報告決算 ……3
第４表　管理運営費等決算 ……3
第５表　発掘調査遺跡一覧 ……4
第６表　遺跡の概要一覧 ……4
第７表　整理・報告遺跡一覧 ……5
第８表　刊行報告書一覧 ……5
第９表　展示一覧……22
第10表　入館者数……22
第11表　センター外展示一覧……22
第12表　現地説明会・地元説明会一覧……23
第13表　体験講座への講師派遣一覧……23
第14表　学校への講師派遣一覧……24
第15表　講演等への講師派遣一覧……24
第16表　坂出市立府中小学校との連携事業一覧……25
第17表　夏休み子どもミュージアム実施事業一覧……25
第18表　考古学講座一覧……25
第19表　資料貸出・利用一覧（数字は件数）……26
第20表　職場体験学習・インターンシップ一覧……26
第21表　トレンチ一覧……29

※ 地図は国土地理院地形図を使用しました。

Ⅰ　組織・施設・決算

1．組織

（1）組　織　図

（2）職　員

所　属	職　名	氏　名
所　長		藤好　史郎
次　長		真鍋　正彦
総務課	課　長（兼務）	真鍋　正彦
	副主幹	林　文夫
	主　任	宮武　ふみ代
	主　任	中川　美江
	主　任	高木　秀哉
調査課	課　長	森　格也
	文化財専門員	山元　素子
	文化財専門員	蔵本　晋司
	文化財専門員	信里　芳紀
	文化財専門員	長井　博志
	文化財専門員	乗松　真也
	嘱　託	山田　隆
	嘱　託	白木　亨
	嘱　託	東渕　愛
	嘱　託	東原　輝明
	嘱　託	藤井　菜穂子
	嘱　託	中野　優美
	嘱　託	脇　恵
資料普及課	課　長（兼務）	森　格也
	主任文化財専門員	西村　尋文
	主任文化財専門員	木下　晴一
	主任文化財専門員	山下　平重
	文化財専門員	森下　友子
	文化財専門員	宮崎　哲治

	文化財専門員	小野　秀幸
	嘱　託	門脇　範子
	嘱　託	矢口　敦子
	嘱　託	竹内　悦子
	嘱　託	下村　幸子
	嘱　託	徳永　貴美
	嘱　託	伊藤　真紀
	嘱　託	合田　安里
	嘱　託	北濱　敦子
	嘱　託	岡崎　江伊子
	嘱　託	木下　美千代
	嘱　託	佐々木　博子
	嘱　託	加藤　恵子
	嘱　託	香西　栄理
	嘱　託	猪木原美恵子
	嘱　託	土居　乃里子
	嘱　託	牧野　香織
	嘱　託	大林　真沙代
	嘱　託	西山　佳代子
	嘱　託	西原　節子
	嘱　託	永森　彩佳
	嘱　託	甲斐　美智子
	嘱　託	市川　孝子
	嘱　託	山地　眞理子
	嘱　託	葛西　薫
	嘱　託	高橋　千恵
	嘱　託	森　后代

第１表　職員一覧

２．施設

（１）所 在 地　　香川県坂出市府中町字南谷5001-4

（２）敷地面積　　11,049.23㎡

（３）建物構造・延床面積

①本　　館	鉄筋コンクリート造・２階建 （一部鉄骨造・平屋建）	1,362.23㎡
②分　　館	鉄骨造・２階建	337.35㎡
③第１収蔵庫	鉄骨造・２階建	1,525.32㎡
④第２収蔵庫	鉄骨造・３階建	2,040.33㎡

⑤車　　庫	鉄骨造・平屋建	29.97㎡
⑥自転車置場	鉄骨造・平屋建	25.00㎡

3．決算

（単位：千円）

原因者	遺跡名	決算
国土交通省	仲戸東遺跡	6,523
	山下岡前遺跡	23,670
	湊山下古墳	18,083
道路課	大下（太田原高州西）遺跡ほか	74,215
合　　計		122,491

第２表　発掘調査決算

（単位：千円）

原因者	遺跡名	決算
善通寺病院	旧練兵場遺跡	75,288
道路課	兀塚遺跡	20,947
	川津六反地遺跡ほか	19,975
	多肥平塚遺跡ほか	32,776
	東坂元秋常遺跡	531
農業経営課	西末則遺跡	33,876
合　　計		183,393

第３表　整理・報告決算

（単位：千円）

管理運営費等	管理運営費	5,325
	職員給与費（※）	146,744
	讃岐国府跡探索事業	754
合　　計		152,823

第４表　管理運営費等決算

※受託事業分
27,710千円を再掲

Ⅱ　事業概要

1．埋蔵文化財調査事業

（1）事業概要

調査課は、2班体制で国道バイパス建設、県道整備等に伴う6遺跡の発掘調査を行うとともに、讃岐国府跡探索事業に係る発掘調査を1班が担当した。資料普及課は、5班体制で善通寺病院統合、県道建設、県農業試験場移転事業に伴う9遺跡の整理及び報告書の作成と、県所管国道建設に伴う1遺跡の報告書を作成した。

原因者	事業名	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	調査期間
国土交通省	国道11号大内白鳥バイパス建設	山下岡前遺跡	東かがわ市湊	2,757	11月～3月
		湊山下古墳	東かがわ市湊	1,600	11月～2月
		仲戸東遺跡	東かがわ市川東	242	3月
善通寺病院	善通寺病院統合	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	40	9月
道路課	太田上町志度線	大下（太田原高州西）遺跡	高松市太田上町	1,157	4月～5月
		多肥北原西遺跡	高松市多肥上町	2,825	6月～10月
合計				8,621	

第5表　発掘調査遺跡一覧

遺跡名	遺跡の概要	主な遺構・遺物
山下岡前遺跡	弥生時代の集落跡。 古墳時代の墳墓。 古代の寺院関連遺構。	弥生時代の竪穴住居跡。古墳時代の小竪穴式石室墳。古代の大型掘立柱建物跡。柵列。 弥生土器、須恵器、土師器、 軒瓦、丸・平瓦、塑像螺髪。
湊山下古墳	古墳。	竪穴式石室、粘土槨、箱式石棺。 土師器、勾玉、管玉、ガラス玉。
仲戸東遺跡	古代の集落跡。	古墳時代の溝状遺構。古代の掘立柱建物跡。 土師器。
旧練兵場遺跡	中世の水路跡。	条里地割に係る溝跡。土師器、須恵器。
大下（太田原高州西）遺跡	弥生時代と古墳時代の集落跡。	弥生時代と古墳時代の竪穴住居跡。 飛鳥時代の掘立柱建物跡。 弥生土器、土師器、須恵器。
多肥北原西遺跡	古代の集落跡。 古代の水路跡。	古代の掘立柱建物跡。 古代の溝状遺構。 弥生土器、土師器、須恵器、鉄滓。

第6表　遺跡の概要一覧

原因者	遺跡名	所在地	整理期間
善通寺病院（国立病院機構本部）	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	4月～3月
道路課	兀塚遺跡	高松市檀紙町	4月～9月
	川津六反地遺跡 川津昭和遺跡	坂出市川津町	10月～3月
	多肥平塚遺跡	高松市多肥上町	4月～5月
	多肥北原西遺跡	高松市多肥上町	6月～10月
	太田原高州遺跡	高松市太田上町	11月～12月
	上東原遺跡	高松市鹿角町	1月～3月
	東坂元秋常遺跡	丸亀市飯山町	平成23年度
農業経営課	西末則遺跡	綾歌郡綾川町	4月～3月

第7表　整理・報告遺跡一覧

書　名
独立行政法人国立病院機構善通寺病院統合事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊　旧練兵場遺跡Ⅲ
県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　多肥平塚遺跡
国道438号線道路改築事業（飯山工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊　東坂元秋常遺跡Ⅱ
香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊　西末則遺跡Ⅲ
讃岐国府跡探索事業調査報告　平成23・24年度

第8表　刊行報告書一覧

第1図　発掘調査遺跡位置図

（2）山下岡前遺跡

山下岡前遺跡は東かがわ市湊字山下・岡前に所在する。県指定史跡白鳥廃寺跡の北に隣接している。

第２図　遺跡位置図（1/25,000）

調査対象地の地形は丘陵に挟まれた谷部とその東側の丘陵部である。谷部は19世紀の整地により平坦になっている。この整地層（近世整地層）中には瓦を中心とした古代の遺物を多量に含み、７～９世紀の塑像螺髪１点も出土した。サイズから丈六仏に取り付けられたものと思われる。近世整地土からの出土であるが、古代瓦や須恵器などを伴った出土状況からみて本来は白鳥廃寺跡にともなう遺物と推定される。

近世整地層を掘り下げると古代の遺構面に達した。この遺構面は、８世紀後葉までの遺物を含む整地層（古代整地層）上面である。遺構面上では掘立柱建物６棟、柵１列などが展開している。特に、建物ＳＢ01～03・06及び柵ＳＡ01は、白鳥廃寺跡の西方基壇や北方基壇との位置関係や同時性、主軸方向の共通性に鑑みて、白鳥廃寺跡と関連する遺構と考えられる。なお、南壁の土層断面を観察すると古代整地層が２時期に分かれ

写真１　山下岡前遺跡、白鳥廃寺跡　空中写真

ている。ＳＢ02は上位面、ＳＢ06は下位面で建てられた可能性がある。柱穴の切り合い関係から建物群の変遷過程は第３図のように２パターン考えられる。一般に建物群は谷筋に立地し、丘陵側の排水施設などの区画維持のための付帯施設が不可欠と考えられるが、この建物群にはそれらが認められない。また、柵列の柱穴が柱を支えるだけの深さが残っていない。この２点から、本来の柱穴掘削面は検出面よりもかなり上位で、後世の土砂の流出により建物基礎の上部は損なわれているとみられる。建物群の検出面は北方基壇や塔基壇よりも低いが、機能時の地表面標高は検出面よりも高かったと考えられ、検出時点ほどの高低差はないと考えられる。SA01は、谷側に建物がなく、主軸方向を塔基壇や西方基壇、北方基壇と同じくしている。このことから、ＳＡ01は白鳥廃寺跡の東限を区画する施設と判断できる。白鳥廃寺跡は７世紀に創建、10世紀頃（平安時代）まで存続したとされる。今回、山下岡前遺跡で検出した遺構は、９世紀の白鳥廃寺跡を構成する施設群で、中心堂塔の背後にあることから、たとえば僧坊などのような寺院経営に必要な施設と考えられる。本来であれば、同様の施設を東西棟で寺域中心線の真後ろに配置するところだが、白鳥廃寺跡の場合は丘陵が迫っておりそれはかなわないので、谷部を整地して、丘陵の間際で東西棟の建物群を設置している。このような点は地方寺院の空間利用を考えるうえで重要な成果といえる。

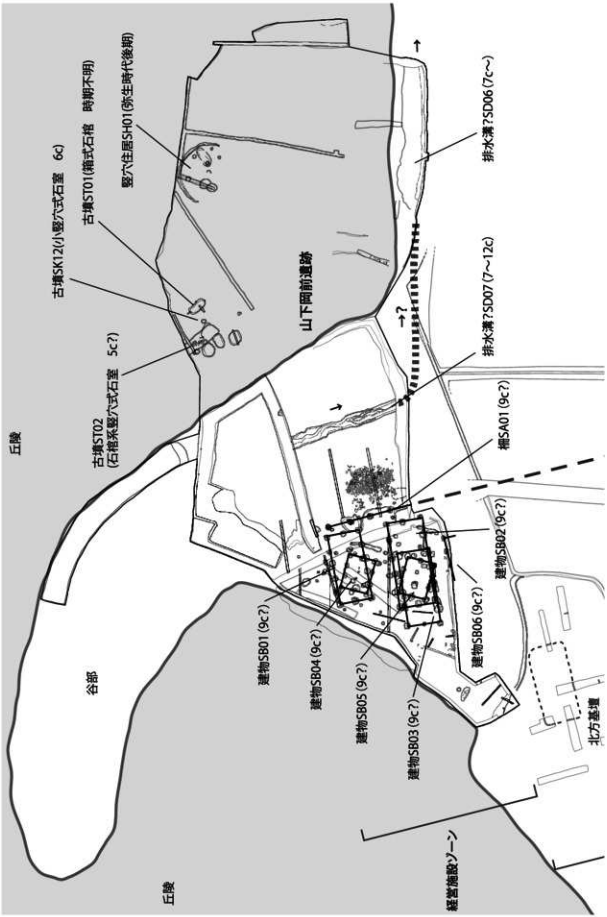
今回の発掘調査で、古代寺院関連遺構のほか、東側丘陵ではこれまで知られていなかった古墳を確認した。ＳＫ12は６世紀後半の小規模な石室を持ち、須恵器と鉄鏃数点が副葬されていた。ＳＴ02は、基底石１段を箱式石棺状に組み、その上に３～４段の川原石を小口積みにし、床面に

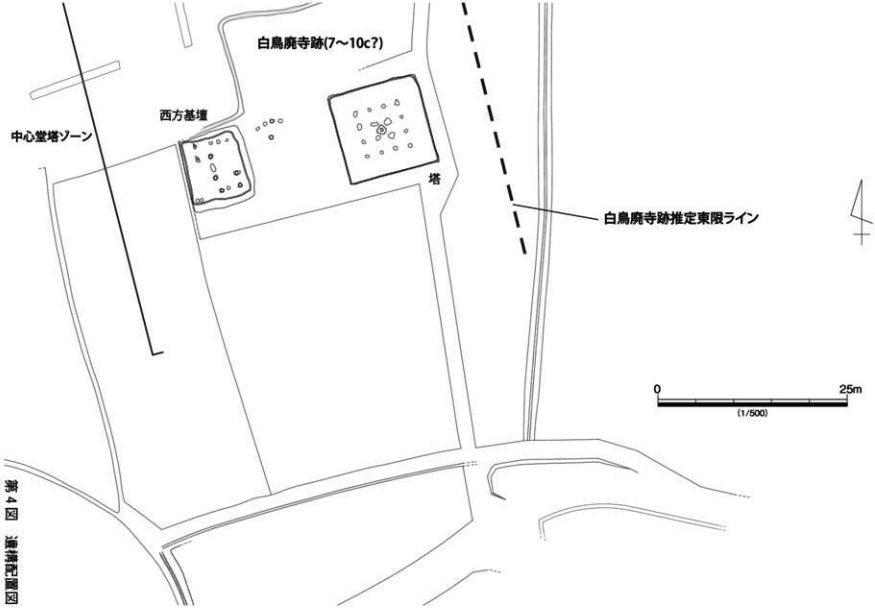
写真２　白鳥廃寺跡塔礎石

写真３　山下岡前遺跡（手前）と白鳥廃寺跡

建物変遷１　　建物変遷２

第３図　建物変遷図


丘陵
古墳SK12(小竪穴式石室　6c)
古墳ST01(箱式石棺　時期不明)
竪穴住居SH01(弥生時代後期)
古墳ST02
(石棺系竪穴式石室　5c?)
山下岡前遺跡
排水溝?SD06(7c～)
排水溝?SD07(7～12c)
柵SA01(9c?)
建物SB02(9c?)
建物SB06(9c?)
建物SB01(9c?)
建物SB04(9c?)
建物SB05(9c?)
建物SB03(9c?)
谷部
北方基壇
経営施設ゾーン
丘陵



第4図　遺構配置図

大きめの川原石を敷き詰めた、竪穴式石室である。副葬されていた鉄鏃の形状から、ST02は4～5世紀の築造とみられる。ＳＴ01は、箱式石棺で土製の玉が副葬されていた。時期は不明である。さらに、同丘陵上では弥生時代の竪穴住居１棟も検出した。

写真４　塑像螺髪出土状況

写真５　SB02

写真６　石棺系竪穴式石室ST02

写真７　ST02基底石検出状況

写真８　SH01

（3）湊山下古墳（みなとやましたこふん）

湊山下古墳は、前山丘陵（標高97.1m）の北東部、東に派生する舌状丘陵端頂部（標高約43m）に立地する。墳頂部からは、眼下の湊川河口の平野部のほか、淡路島や家島諸島、姫路市から相生市の臨海部の工場地帯など、播磨灘が一望できる。調査は、古墳及び周辺埋葬の可能性を想定し、古墳西側と北東側のそれぞれ尾根稜線部から一部斜面部を全面発掘した。

第５図　遺跡位置図（1/25,000）

古墳の所在する丘陵は、北側斜面部は植林により雛壇状に造成され、東側丘陵先端部は農地造成により切り崩され、高さ約15mの崖面を呈するなど、後世の改変が顕著で、墳丘にも多少の影響が及んでいた。また南側斜面は、人為的な改変はあまり認められないが、雨水などの浸食による小規模な谷状地形が数条刻まれ、さらに風倒木によるとみられる窪地が数箇所認められた。なお、墳頂部には、盗掘によるとみられる大きな窪地が認められ、埋葬施設に由来するとみられる石材が散乱していた。

写真９　湊山下古墳　空中写真（下が北）

写真10　古墳遠景（南西から）

古墳は、葺石や周溝などの明瞭な外表施設を欠き、墳形を確定することは困難であった。しかし、墳丘北東部の標高40.40m前後に傾斜変換点があり、後世の造成による改変の影響を考慮しつつも、テラス状の緩斜面部が弧状に認められることから墳裾の可能性を想定し、後述する埋葬施設の中央を中心として、径約20mの円墳と考えた。テラス状の緩斜面は墳丘を全周せず、北東部にのみ認められることから、湊川河口平野部及び瀬戸内海からの眺望を意識し、視認可能な部分のみ丘陵斜面をカットするなどの造成工事を施したものと考えられる。また、墳丘北下方の斜面部等より、壺形埴輪とみられる土器小片が少量出土している。

埋葬施設は、粘土槨と竪穴式石室が南北に併置され、西に箱式石棺が構築されていた。箱式石棺を除いて、盗掘による撹乱が顕著であった。粘土槨の主軸方向はN86.6°W、竪穴式石室はN77.8°W、箱式石棺はN83.0°Wと、いずれも東西を志向する。

粘土槨（第１主体）は、長さ約4.1m、幅約2.1m、残存深約0.7m、平面隅丸長方形、断面逆台形を呈する墓壙底中央を、長さ1.8m以上、幅0.6m、深さ0.15m程度、断面U字状に掘り窪めて棺床部を造成し、その上面に赤色粘土を厚さ２～３㎝貼り付けて木棺を据え、さらに上面を赤色粘土で被覆し、墓壙掘削土で埋め戻していた。なお、粘土床と墓壙周壁の間には、長軸15～25㎝、厚さ２～３㎝程度の砂岩円～亜円礫が棺南側を中心に置かれていた。北側及び東側には数石が認められたのみであるが、盗掘による撹乱を考慮すると、本来は粘土床周囲を全周していた可能性も考えられる。礫下面で排水溝などの施設は確認されず、石室基底石とするにはあまりに小振り

写真11

第１主体（下側）と第２主体（上側）

写真12

第１主体　勾玉出土状況

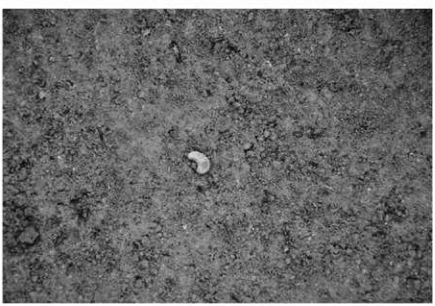
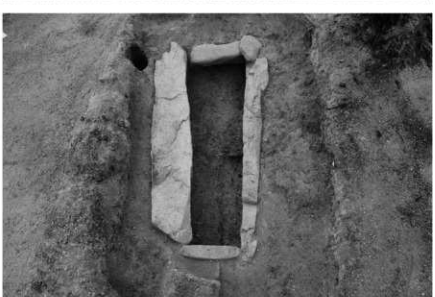


写真13

第３主体



なため、その用途・目的については明らかではない。さらに、粘土床西小口部の被覆粘土上面では、同様の礫が約20石程度積み上げられた状態で出土した。後述する副葬品の出土位置より、被葬者の頭位は西側の可能性があり、なんらかの呪的な意味も考えられる。棺は、東半部を盗掘により欠損しているが、長さ2.7m前後、幅約0.5mの割竹形木棺と考えられ、棺材は遺存しておらず、また、赤色顔料の使用は認められなかった。副葬品は、棺内からは出土せず、棺西半部の被覆粘土内を中心に、ヒスイ製勾玉１点のほか、緑色凝灰岩製管玉とガラス小玉が合計約40点出土した。

竪穴式石室（第２主体）の墓壙は、長さ約3.9m、幅約1.7m、残存深約0.6m、平面隅丸長方形、断面逆台形を呈する。石室は、墓壙西半部を中心に検出され、東半部は盗掘により石材が大きく動かされていた。また、西半部でも大半は基底石が遺存するのみで、最も良好な部分で３段を確認できた。規模は、内法長2.6m以上、同幅約0.5m、残存高0.4mである。石室内床面は、墓壙底上面に直接赤色粘土が敷かれ棺床を構築していたが、その上面は盗掘により大きく撹乱され、棺形状は明らかにできなかった。石室石材は、長軸50～90cm、短軸20～60cm、厚さ５～15cmを測る扁平な板状の砂岩や花崗岩の円～亜角礫を小口積みにして構築し、西小口部は弧状を呈する。本墳の南西約600mに所在する大日山古墳でも、同様な石材により石室を構築している可能性があり、地域的な伝統の可能性も考えられる。なお、副葬品はヤリガンナ１点が出土したのみである。

箱式石棺（第３主体）の墓壙は、長さ約1.5m、幅約0.8m、残存深約0.4m、平面隅丸長方形、断面逆台形状を呈する。棺蓋上には、約0.1mの厚さに赤色粘土が盛られ、棺周囲にも多量の粘土が充填されていた。石棺は、蓋石及び長・短側石を各１石で構成する小規模なもので、内法長約0.7m、同幅0.15～0.2mの小児用棺である。西側の幅がやや広いことから、西頭位に葬られていたと考えられ、やや西よりの棺内粘土床上より、ガラス玉３点が出土した。

上述した内容から、本墳は集成編年３期を中心とする時期の古墳と考えられ、大日山古墳に後続し、本県最東端の前期古墳であることが明らかとなった。また、壺形埴輪のみの供献、２棺併置と東西軸、棺の格差表示など、本地域の埋葬儀礼のいくつかを踏襲していることも明らかとなった。本地域では、これまで前期古墳としては大日山古墳しか知られておらず、単発的な古墳築造地域と考えられてきたが、今後の調査の進展により、間隙を埋める古墳が新たに見つかる可能性も示唆されたことで、大日山古墳を含めた本地域の位置付けを再考することも必要であろう。なお、埋葬施設の構造や規模は高松市六つ目古墳に酷似するが、六つ目古墳は小規模ながら前方後円墳を採用し、本墳とは墳形が異なる。この相違が、地域的なものか、時期的なものか、あるいは被葬者の政治的位置関係を示すものか、今後の課題と考える。

（4）仲戸東遺跡

仲戸東遺跡は、前山丘陵（標高97.1m）と古川に挟まれた東西幅100m程度の狭小な平地部に位置する。今年度の調査地は、平成20年度調査区から主要地方道大内白鳥インター線を挟んだ東側の隣接地である。調査前は宅地として利用されていた。調査地の東側には、前山丘陵より西に派生する舌状丘陵が迫り、北側には丘陵部より小規模な谷筋が古川へと流下する。

第６図　遺跡位置図（1/25,000）

調査地の現地表面の標高は11.50mで、現地表下1.8mは宅地造成時の盛土層である。盛土層下に、宅地造成前の旧耕土層を確認した。旧耕土層下では、２～５層の水平堆積層を確認した。この水平堆積層は出土遺物に乏しいが、近世以降の耕土層と考えられる。近世段階では、西へ下る２～３段程度の棚田状の地割であったようだが、宅地造成前には２筆に合筆されたようだ。なお、最下層の旧耕土層下面で鋤溝群を検出した。溝群の方向はN15.8°Eで、現状の地割の方向と概ね合致し、現状地割の方向が近世頃までは遡ることが明らかとなった。

写真14　仲戸東遺跡全景

旧耕土層下には、後述する旧河道上面を中心に褐灰色系砂質土の包含層が堆積し、包含層下で遺構面を検出した。検出された遺構には、掘立柱建物２棟と溝状遺構１条、埋没旧河道がある。建物１（SB01）は、梁間３間（3.78m）、桁行３間（6.34m）、床面積23.96㎡、主軸方向N37.3°Eの南北棟の総柱建物である。柱穴は、長軸0.7m、短軸0.6mの平面隅丸方形を呈し、一部の柱穴で柱痕及び柱材を検出した。遺物は、各柱穴より土師器小片が少量出土した。建物２（SB02）は、北端部の柱穴列を検出したのみで、調査区外へ延長するため建物規模は明らかではない。３間（3.5m）を検出し、主軸方向はN83.7°Wと、SB01とは異なる。遺物は、SB01と同様であり、切り合い関係よりSB01より先行する。建物群の時期は、遺物から細かく特定することは困難だが、上述した包含層は８～９世紀を下限とする遺物が出土しており、近似した時期に求めることができよう。

溝状遺構（SD01）は、建物群西端で検出した直線溝で、幅約0.6m、残存深約0.2m、主軸方向N53.76°Eである。埋土は単層で、底面の標高より、南へ流下する可能性が高い。土師器甕、壺などの破片の遺物が出土していることから、この遺構は古墳時代前期末～中期初頭頃のものと考えられる。

埋没旧河道（SR01）は、幅10m以上、残存深0.6mである。流路西岸が調査区外にあるため、流路幅は確定できない。周辺地形より、遺跡西側を北流する古川の旧流路と考えられ、調査区北で谷状地形と合流し、西へ大きく流下方向を変えたとみられる。遺物は出土しておらず流下時期を特定することは困難だが、SB01・02、SD01はいずれも流路上面より掘り込まれていることから、これらの遺構より先行することは間違いない。上述したように、包含層はSR01上面を中心に堆積し、建物群等の使用時には、流路上面は平準化しておらず、浅い窪地として残されていたようだ。

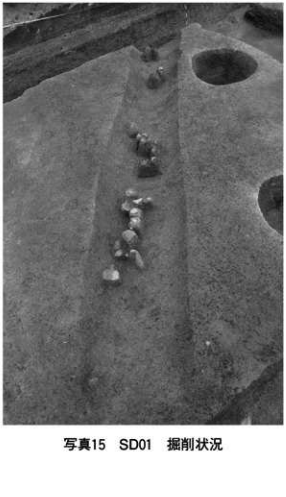


写真15　SD01　掘削状況

（5） 旧練兵場遺跡

平成23年度に国立病院機構善通寺病院の新病院（四国こどもとおとなの医療センター）建設に附帯する電気等の配管敷設工事に伴う発掘調査を行った。

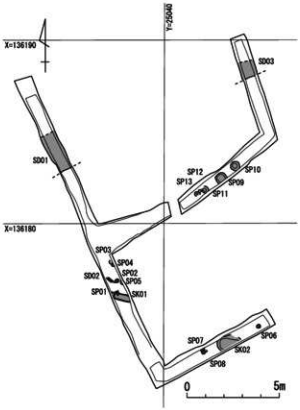
平成24年度は、新病院の南東側の県道48号線と接する付近の配管工事に伴う発掘調査を行った。本体工事に伴う事務所や安全施設の存在によって、予定されていた掘削部分すべての調査は行えず、次年度以降に延期されることとなったが、掘削幅が0.6mから0.9mに広がったことにより、調査面積が30㎡から40㎡となった。

第７図　遺跡位置図（1/25,000）

造成土を除去すると比較的浅い位置で遺構面が現れる。溝状遺構、土坑、柱穴を検出したが、撹乱によって遺構面が乱されていることと調査範囲が狭小であることから、建物の復原等、検討を深めることはできなかった。また、出土遺物が28リットルコンテナ３箱であったものの、大半が溝状遺構のものであるため、年代を確定できない遺構が大半である。

調査地の北側で検出したSD01は、平成16年度に調査を行ったⅡ区SD2001の南半部に当たり、条里地割の坪界線に相当するところに掘削されたものである。出土遺物は、須恵器と土師器の細片であり、12世紀代のものが最も新しいものである。

写真16　SD01掘削状況



第８図　遺構配置図

（6）大下（太田原高州西）遺跡

大下遺跡は高松市三名町字大下に所在する。県道太田上町志度線整備にともなう事前の試掘調査で遺跡の存在を確認し、平成24年度に本調査を実施した。同一の路線上では、約100m東方に太田原高州遺跡、約400m西方に上東原遺跡がある。大下遺跡の調査では、７世紀前～中葉を中心とする集落遺跡を検出、竪穴住居11棟、掘立柱建物３棟を確認した。竪穴住居は基本的にはカマドを備えており、うち１棟（ＳＨ07）ではカマド（カマド１とする）が良好な状態で残っていた。

第９図　遺跡位置図（1/25,000）

ＳＨ07は東西6.2m、南北5.5m以上の方形の竪穴住居で北辺にカマドが設けられている。同時期の他の竪穴住居の深さがせいぜい0.3mであるのに対して、ＳＨ07は検出面から床面まで0.6mと深いためカマドが残存する条件に恵まれたのだろう。カマド１は袖部、焚口天井部ともに粘土を構築材としてかけ口を作り出している。袖部の基部にも削り出しの痕跡はない。竪穴住居の埋土を掘り下げ、被熱により赤色化した部分でようやくカマド構築材の確認に至った。被熱箇所は本来はカマドの内側にあたり、構築材を少し削りこんだ状態で検出したことから、本来のカマドは検出状態よりもひとまわり大きく復元できる。焚口に明瞭な掘り込みは見られず、円形のかけ口の真下には被熱痕のある砂岩が置かれていた。支脚として使われていたのだろう。煙出は円形で、煙道は地下を通って焚口に接続する。地表から、いったんオープンカットで掘り込んで煙道部分をつくり出し、煙道から煙出しにあたる部分に筒状の有機物を入れた後に天井部分を埋め戻して地下を通る煙道としているものと考える。

また、カマド１の西方にも煙道の痕跡がある（カマド２とする）。焚口付近に構築材などは確認できなかったため、竪穴住居廃絶時には東側のカマドのみが機能していたのだろう。よって、ＳＨ07に伴うカマドの変遷は、①カマド２機能→カマド２廃絶→カマド１構築・機能、②カマド１・２機能→カマド２のみ廃絶、のふたつの可能性が考えられることになる。

その他、弥生時代後期の竪穴住居２棟を確認している。

写真17　SH07カマド１検出状況

（7）多肥北原西遺跡

多肥北原西遺跡は、高松平野の南西部、多肥上町に所在する。平成22年度から発掘調査を行ってきた。今年度の調査区は平成23年度の西側に隣接している。調査の結果、古墳時代後期～平安時代と江戸時代の遺構を検出した。

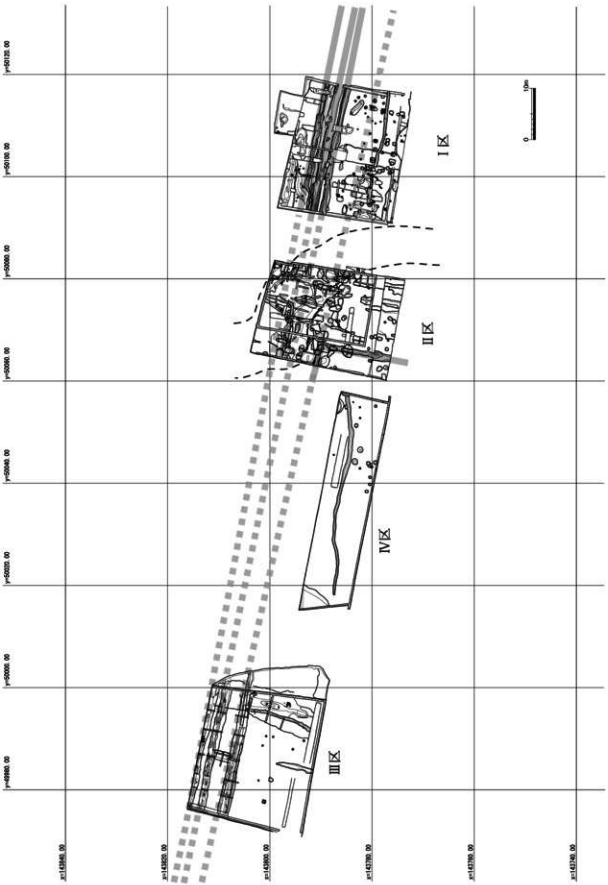
第10図　遺跡位置図（1/25,000）

Ⅰ区では、古墳時代後期の遺構は掘立柱建物跡2棟を復元、溝状遺構を１条検出した。掘立柱建物跡は2棟とも現状地割とは方位が異なり、おおむねN37°Wを指す。溝状遺構は幅７ｍ以上、深さ30㎝程度でおおむね掘立柱建物跡と同じ方向を指すが、奈良・平安時代の溝群に破壊されてほとんど残されていなかった。調査した範囲では古墳時代後期の遺構は少なかったが、隣接する多肥北原遺跡や太田原高州遺跡でおおむね同時期の竪穴住居跡が多く検出され、当該期の集落があったことが想定されるため、調査地の周辺まで集落の広がった可能性もあろう。

奈良・平安時代の遺構としては６条の溝状遺構を検出し、掘立柱建物跡３棟を復元した。溝状遺構はいずれも方位が現状地割と揃う東西方向を指し、そのうち５条は北半部で、４条は重複して検出した。これらの溝群は出土遺物と溝の前後関係から奈良時代～平安時代中頃まで場所を少しずつ変えながらほぼ同じ場所を踏襲して掘削されたと考えられる。これらの溝群の延長部は平成22年度調査区から平成24年度調査区西端までの300ｍ弱まで確認されており、さらに西へ延びると考えられる。これらの溝群のうち最も新しい溝状遺構からは平安時代前半～中頃の土器とともに総数約90点、総重量約1.8kgの鉄滓が出土した。遺跡の南東約150ｍには平安時代中頃の創建が想定される多肥廃寺があり、何らかの関連があることも想定される。掘立柱建物跡はいずれも調査区の北半部で検出した溝群の南側で、現状地割とほぼ同じ方位で検出した。建物１は梁間２間、桁行３間の東西棟で、床面積は約24㎡である。柱穴は長辺0.8ｍ、短辺0.6ｍ程度の隅丸方形で深さは約0.8ｍ、８穴には柱穴の底に礎石が残されていた。

Ⅰ区で検出した溝状遺構はⅡ区では旧河道（Ⅱ区SR201）により削平されており、旧河道を掘り下げた後にごく一部を確認したに留まる。旧河道の掘り下げ後には他に8世紀代の土坑などを少数確認した。

Ⅱ区SR201の堆積土は大別2層に区分できる。上層は灰色砂礫層であり、10～20㎝大の亜円礫を多量に含む。下層は暗黄褐色中粒砂である。下層は部分的にしか見られず、層厚も10㎝程度であるが、上層はSR201全面に分布し、層厚も40～50㎝を測る。このように上層はSR201の主要な



第11図　遺構配置図

堆積土であり、洪水等により堆積したと考えられる。出土遺物はごく少量の須恵器のみであるが、遺構の切り合い関係よりSR201の時期は9世紀代以降と考えられる。

Ⅰ・Ⅱ区の東半分ではおおむね幅１ｍ前後、長さ５ｍ前後の、周辺の地割とほぼ方位を揃えた長方形の土坑が10基程度検出された。調査地のベースが粘土であることから、土坑は粘土を採集するための土坑と考えられ、出土遺物から時期は江戸時代末頃と考えられる。

Ⅱ区では基盤礫層から上位に連続して隆起する礫群を検出した。これについては大地震の痕跡である噴礫の可能性が考えられたため、香川大学工学部教授長谷川修一氏・同准教授山中稔氏に現地指導を依頼した。その結果、「隆起した礫群に10～20㎝大の礫が多く含まれ、これらが直立気味に同じ方向に配列していることから噴礫である。」とのコメントをいただいた。また、独立行政法人産業技術総合研究所招聘研究員寒川旭氏に礫群の写真を確認いただき、やはり「噴礫であると考えられる。」とのコメントをいただいた。

写真18　Ⅰ区全景

写真19　Ⅱ区全景

写真20　溝　鉄滓出土状況

写真21　噴礫断ち割り（正面）

2．普及・啓発事業

1　展示

①香川県埋蔵文化財センターでの展示

タイトル	場所	会期	観覧者数
遺跡・遺物からみた香川の歴史	第１展示室	４月１日～９月７日、 １月10日～３月31日	2,231
続・発掘へんろ　～四国の古代～	第１展示室	９月18日～12月16日	1,180
讃岐国府跡を探る3　―平成23年度の調査―	第２展示室	１月16日～５月11日	1,081
瀬戸内海を見下ろした村の歴史	第２展示室	５月21日～７月７日	269
夏休み子どもミュージアム　あ、古墳へ行ってみよう。	第２展示室	７月17日～８月31日	530
讃岐国府跡と官衙遺跡	第２展示室	９月11日～12月28日	1,205
讃岐国府跡を探る4　―平成24年度の調査―	第２展示室	１月14日～３月31日	1,791
合計			8,287

第９表　展示一覧

一般			団体								合計
			団体数				構成員数				
大人	子ども	計	一般	高校生	小・中学生	計	一般	高校生	小・中学生	計	
2,426	263	2,689	27	0	10	37	593	0	491	1,084	3,773

第10表　入館者数

②館外での展示

タイトル	場所	会期	観覧者数
讃岐国府跡を探る３ －平成23年度の調査－	高松市讃岐国分寺跡資料館	５月15日～６月24日	635
讃岐国府跡探索事業展示	水のフェスティバルin府中湖	10月７日	3,000
讃岐国府跡を探る３ －平成23年度の調査－	坂出市郷土資料館	11月１日～11月29日	466
香川県立図書館・文書館の地下の遺跡	香川県立文書館	１月22日～３月10日	938
讃岐国府跡を探る３ －平成23年度の調査－	東かがわ市歴史民俗資料館	２月22日～５月６日	107
四国地区埋蔵文化財センター巡回展続・発掘へんろ －四国の古代－	松山市考古館	４月28日～６月24日	2,163
	高知県埋蔵文化財センター	７月２日～９月８日	1,246
	香川県埋蔵文化財センター	９月18日～12月16日	1,180（再掲）
	徳島県立埋蔵文化財総合センター	１月10日～３月17日	927
合計			10,662

第11表　センター外展示一覧

2　現地説明会・地元説明会

	内容	実施日	対象	見学者数
1	太田原高州西遺跡現地説明会	5月13日	一般	100
2	多肥北原西遺跡現地見学会	6月23日	一般	50
3	多肥北原西遺跡現地説明会	9月15日	一般	110
4	加茂地区讃岐国府探索事業報告会	12月8日	一般	30
5	讃岐国府跡現地説明会	2月9日	地元	178
6	讃岐国府跡現地説明会	2月10日	一般	742
7	湊山下古墳現地説明会	2月16日	一般	90
8	山下岡前遺跡現地説明会	2月16日	一般	100
9	讃岐国府跡探索事業シンポジウム	2月17日	一般	200
10	讃岐国府跡探索事業シンポジウム	3月17日	一般	170
合計				1,770

第12表　現地説明会・地元説明会一覧

3　講師の派遣

①体験講座など

	依頼者	実施日	場所	内容	対象	人数
1	坂出市本鴨地区子供会	5月12日	坂出市加茂出張所	勾玉づくり	親子	47
2	亀阜地区民生委員児童委員協議会	6月10日	亀阜小学校	勾玉づくり	親子	54
3	香南歴史民俗郷土資料館	7月22日	香南歴史民俗郷土資料館	ガラス玉づくり	小学生	18
4	香南歴史民俗郷土資料館	7月26日	香南歴史民俗郷土資料館	ミニ埴輪・分銅形ペンダントづくり	小学生	20
5	香南歴史民俗郷土資料館	8月3日	香南歴史民俗郷土資料館	勾玉づくり	小学生	27
6	高松市東植田コミュニティ協議会	8月7日	東植田コミュニティセンター	土笛づくり	子ども	16
7	香南歴史民俗郷土資料館	8月17日	香南歴史民俗郷土資料館	土笛づくり	小学生	18
8	坂出市教育委員会生涯学習課	11月10日	坂出市中央公民館	勾玉づくり	親子	15
9	高松市立石の民俗資料館	2月16日	高松市石の民俗資料館	土笛づくり	親子	18
合計						233

第13表　体験講座への講師派遣一覧

②学校

	学校名	実施日	内容	対象	人数
1	高松市立香南小学校	6月16日	勾玉づくり	6年生親子	70
2	高松市立前田小学校	7月2日	土器づくり	6年生	47
3	坂出市立松山小学校	7月11日	出前授業	6年生	35
4	高松市立前田小学校	10月19日	土器焼き	6年生	46
5	観音寺市立高室小学校	11月19日	竪穴住居づくり	親子	10
6	観音寺市立高室小学校	12月9日	竪穴住居づくり	親子	30
7	観音寺市立高室小学校	1月20日	竪穴住居づくり	親子	20
8	観音寺市立高室小学校	3月30日	竪穴住居づくり	親子	80
合計					338

第14表　学校への講師派遣一覧

③その他

	依頼者	実施日	内容	人数
1	さぬき市文化財保護協会	5月19日	講演	79
2	丸亀郷土史学習クラブ	6月9日	講演	8
3	高松市讃岐国分寺跡資料館	6月15日	講演	35
4	土庄町文化財保護審議会	7月29日	講演	48
5	宇多津町教育委員会	7月31日	講演	35
6	三豊市高瀬町公民館	8月22日	講演	84
7	介護付有料老人ホームフラワーガーデン京町	9月8日	講演	120
8	高松市太田南コミュニティセンター	10月2日	講演	30
9	水フェスティバルin府中湖実行委員会	10月6日	史跡解説	150
10	勝賀域跡保存会	11月7日	史跡解説	38
11	府中老人クラブ連合会	11月8日	講演	69
12	高松市文化財保護協会	11月8日	講演	40
13	市民煎茶グループ曙会	1月14日	講演	160
14	（公財）徳島県埋蔵文化財センター	2月17日	講演	60
15	東かがわ市教育委員会	3月20日	遺跡解説	80
16	三豊市財田町公民館	3月22日	講演	40
合計				1,076

第15表　講演等への講師派遣一覧

4　坂出市立府中小学校との連携授業（よろこび学習）

回	実施日	場所	内容	対象	人数
1	11月７日	讃岐国府跡	現場見学	６年生	30
2	２月13日	讃岐国府跡	現場見学	５年生	42
3	２月14日	讃岐国府跡	現場見学	３・４ 年生	68
9	２月14日	讃岐国府跡	現場見学	６年生	44
合計					184

第 16 表　坂出市立府中小学校との連携事業一覧

5　夏休み子どもミュージアム

７月16日～８月31日に夏休み子どもミュージアムを行った。

実施日	タイトル	内容	人数
７月17日～８月31日	あ、古墳へいってみよう。	展示	585
７月17日～８月31日	遺跡の自由研究サポートデスク	自由研究のアドバイス	－
７月27日	あ、古代をたいけんしてみよう。	分銅形ペンダントづくり、ガラス玉つくり	19
８月２日	あ、発掘してみよう。	発掘体験	17
８月９日	あ、古墳を見てみよう。	古墳の見学	8
合計			629

第 17 表　夏休み子どもミュージアム実施事業一覧

6　考古学講座

専門職員が講師を務める考古学講座を5回開催した。

回	実施日	タイトル	講師	人数
1	６月９日	南海道と阿野郡河内駅家	藤好史郎	24
2	８月11日	古墳を学ぶ	宮崎哲治	32
3	10月13日	石器の基礎知識　サヌカイト編	小野忠幸	27
4	12月８日	香川の緑釉陶器	山元素子	18
5	２月５日	トイレの考古学	長井博志	30
合計				131

第 18 表　考古学講座一覧

7　文化ボランティア活動

文化ボランティアは、事業の記録撮影や普及事業の補助等を行った。８名が登録し、11回、延べ32名が活動に参加した。

8　四国新聞への連載

四国新聞に「古からのメッセージ　第10部・讃岐国府跡探索事業から」として、計50回の連載を行った。内容は、「讃岐国府推定地の調査」（12回）、「香東川流域の遺跡を行く」（13回）、「『続・発掘へんろ』展の遺物から」（13回）、「南海道を考える」（12回）である。

9　資料の貸出・利用

区分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・博物館	出版社・新聞社	個人・他	合計
遺物	3	1	21	0	11	36
写真・パネル	0	2	6	5	0	13
レプリカ・模型	0	0	2	0	0	2
合計	3	3	29	5	11	51

第19表　資料貸出・利用一覧（数字は件数）

10　職場体験学習・インターンシップ

	学校名	期間	内容	人数
1	高松市立国分寺中学校	9月4日～9月5日	職場体験学習	4
2	坂出市立白峰中学校	9月19日～9月20日	職場体験学習	2
3	高松市立香東中学校	9月24日～9月28日	職場体験学習	4
4	坂出市立坂出中学校	10月23日～10月25日	職場体験学習	4
5	丸亀市立綾歌中学校	11月8日～11月9日	職場体験学習	2
合計				16

第20表　職場体験学習・インターンシップ一覧

11　刊行物

（1）『香川県埋蔵文化財センター年報　平成23年度』

（2）『香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅸ』

（3）『いにしえの讃岐』　74～77号

（4）平成24年度讃岐国府跡現地説明会資料『讃岐国府跡の発掘調査』

（5）シンポジウム『讃岐国の幕開け』資料

（6）シンポジウム『讃岐国府から香川県庁へ』資料

※発掘調査報告書は「整理・報告事業」にまとめた。

12　ホームページ

ホームページ（http://www.pref.kagawa.lg.jp.maibun/）の更新を随時行った。

トップページページビュー数　　28,298

3．讃岐国府跡探索事業

「香川県文化芸術振興計画」に基づき平成21年度から開始した讃岐国府跡探索事業は、今年度で前期計画の最終年度となるため、前期4か年における事業総括を念頭においた各種調査事業や調査成果の公開を目的とした広報活動を実施した。

1　調査事業

調査事業は、地形調査、水利調査、地名調査、讃岐国府跡関連遺跡の調査、讃岐国府跡発掘調査を実施した。地形、地名、水利調査は、平成23年度から継続して林田町において補足調査を実施し、讃岐国府跡が所在する綾北平野全域における総括を行った。

讃岐国府跡関連遺跡の調査では、国府成立前史の綾北平野の政治動向を探ることを目的として、大型横穴式石室を内部主体にもつ穴薬師（綾織塚）古墳の測量調査を実施した。

以上の調査成果については、後述する讃岐国府跡の既往の調査成果の再検討と合わせて、『讃岐国府跡探察事業調査報告　平成23・24年度』として調査報告書を刊行しているので、そちらを参照していただきたい。

讃岐国府跡の発掘調査は、まず、調査地の選定を行うことを目的として、既往の発掘調査資料の再点検を行い、その成果に基づいて讃岐国府推定域南部の4筆において255㎡の調査を実施した。調査の結果、奈良時代から平安時代にかけての瓦塼による方形の区画施設とその内部で建物群が確認できたので、今回の調査区が国庁等の国衙域中枢部である可能性が高まった。方形区画の規模や内部の建物配置の明確化については、平成25年度以降の調査に引き継がれる。

2　広報活動

今年度は、平成21年度から継続して実施してきた展示や報告会に加えて、讃岐国府跡に関係したシンポジウムを2回開催した。2月17日に坂出市民ふれあい会館で1回目のシンポジウムを開催した。「讃岐国の幕開け－讃岐国府跡の発掘調査成果とその時代－」と題して、シンポジウムでは、讃岐国府出現前夜となる7世紀から同出現期の8世紀にかけて、最新の讃岐国府跡の発掘調査成果や県内の寺院・古代山城・窯業生産等の考古資料を取り上げて、讃岐国府出現の歴史的意義に迫った。第2回目のシンポジウムは、3月17日に県庁ホールで「讃岐国府から香川県庁へ－時代を超えてみえてくるもの－」と題して開催した。シンポジウムでは、讃岐国府と旧香川県庁舎（現在の東館）を取り上げて、歴史的記念物である両者がもつシンボル性や時代性から特性を議論した。

両シンポジウムとも熱心な一般参加者が多く、大盛況であった。来年度以降も、このような讃岐国府跡をテーマとした総括的なシンポジウムを開催することで、積極的な調査成果の公表や地域振興に役立てる予定である。

①ボランティア活動

登録者数　37人

活動延べ員数　1081人

②情報発信

ホームページへの情報掲載　46回

情報誌「いにしえの讃岐」への記事掲載　4回

新聞への連載記事掲載　50回

テレビ出演による広報　6回

地元ケーブルテレビ情報誌への記事掲載　6回

③普及啓発事業（再掲）

各種団体等の讃岐国府跡の見学　通年　9回　414人

讃岐国府跡発掘調査説明会　2月9、10日　920人

讃岐国府跡発掘調査現場見学　府中小学校児童　2月13、14日　154人

調査報告会　「加茂地区讃岐国府探索事業報告会」坂出市加茂出張所　12月8日　30人

シンポジウム「讃岐国の幕開け」坂出市民ふれあい会館　2月17日　200人

シンポジウム「讃岐国府から香川県庁へ」県庁ホール　3月17日　170人

展示「讃岐国府を探る3」高松市讃岐国分寺資料館5月15日～6月24日　635人

展示「讃岐国府を探る3」坂出市郷土資料館　11月1日～11月29日　466人

展示「讃岐国府を探る4」東かがわ市歴史民俗資料館　2月23日～5月5日　113名

展示「第14回　水のフェスティバルin府中湖」10月7日　3,000人

展示「かがわ長寿大学作品展」10月27、28日　150人

講師依頼　通年　8回　496人

Ⅲ　讃岐国府跡探索事業に伴う調査報告

平成24年11月５日から平成25年３月15日までの期間で、以下に示す位置に３本のトレンチを設定し調査を行った。調査面積は255㎡である。以下に調査の概要を記す。

①主たる検出遺構と年代

建物跡　８棟以上（礎石建物2棟を含む）　奈良時代～鎌倉時代

塀跡　２基（瓦葺き塀含む）　奈良時代～平安時代

溝跡　８条　奈良時代～平安時代

②主たる出土遺物

須恵器・土師器・緑釉陶器・灰釉陶器・古瓦・鉄器・青銅器（整理箱67箱）

③調査地位置と調査方法

調査対象地は、讃岐国府推定地南部の微高地上であり、白鳳期創建とされる開法寺跡の北東側に位置する。調査前の土地利用形態は、全て水田である。地形や既往の発掘調査成果を考慮して、国土座標を基本とした３本の調査トレンチを設定し、包蔵状況の確認を行った。30-1・30-3トレンチにおいては、古代の整地土上面で遺構を検出しているが、保存目的の調査であることから、整地土上面の遺構は半裁を基本とし、最下層の検出面となる黄灰色シルト上面までの整地土の掘り下げは最小限に止めた。埋め戻しは、遺構検出面上に養生を目的とした厚さ約10cmの砂を敷設した後、花崗土を主体として行い、現状回復の措置を採った。

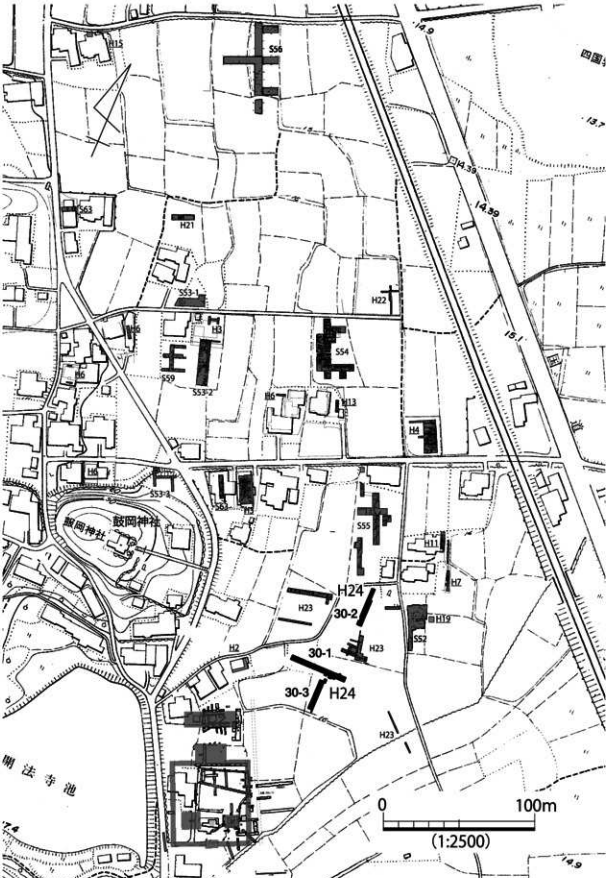
④主要遺構の概要と変遷

奈良時代前期（８世紀前半）

30-1トレンチ西部で掘立柱建物（建物1）を1棟、30-3トレンチ南部で柱穴群を検出しており、これらは条里地割の方位を基準としている。下層の遺構検出面までの掘り下げを限定的に行っている為、これらの建物に伴う区画施設やその広がりは不明であるが、平成23年度の29次調査で確

番号	規模	面積	地番	調査方法	主たる検出遺構
30-1	40m×3m	120㎡	坂出市府中町字本村上所 5089 番２ 坂出市府中町字本村上所 5093 番	柱穴半裁　溝部分的掘削・平断面測量	建物跡５.塀跡２.溝跡５.谷地形（奈良～平安時代）
30-2	25m×3m	75㎡	坂出市府中町字本村上所 5088 番１ 坂出市府中町字本村上所 5089 番１	遺構平面検出・平面測量	建物跡３.溝跡２.井戸跡１.落ち込み（平安～鎌倉時代）
30-3	20m×3m	60㎡	坂出市府中町字本村上所 5093 番	遺構平面検出・遺構上面掘り下げ・平断面測量	大型柱穴群．溝３（奈良～平安時代）

第21表　トレンチ一覧



第 12 図　讃岐国府跡　調査区位置図

認された７世紀後半に属する正方位の大型掘立柱建物跡とは異なり、条里型地割を基準としている点は注目される。今後の発掘調査の進展によって、初現期の讃岐国府の遺構群となる可能性が高い。

奈良時代後期から平安時代初頭（８世紀後半～９世紀前葉）

30-1トレンチ西部で区画施設とみられる塀１、同トレンチ東端部で建物２を、30-3トレンチ中央部で大型柱穴群を検出している。塀１は、溝1002・1040間において大型の方形柱穴列をもち、これらは条里型地割の方向に合致している。遺構検出状況や溝1002・1040から古瓦が多量に出土することからみて、瓦葺きの掘立柱塀となる可能性が高い。周辺地形や同時併存する建物遺構の分布状況からみて、方形区画の北限を画する塀と判断した。

建物２は、建物北端となる東西方向の柱穴列の一部を確認したに過ぎないが、検出状況からみて、南北棟となる可能性が高い。塀１の中軸線から柱列までの距離は約８ｍを測る。柱穴内に柱根は残存しておらず、礎石建物に伴う壷地業の可能性も想定しておきたい。

30-3トレンチの大型柱穴列は、建物全体規模は不明であるが、柱間が約３ｍと長いことから、条里型地割の方向に合致した東西棟の大型建物となる可能性が高い。

平安時代前期から後期（９世紀中葉～10世紀）

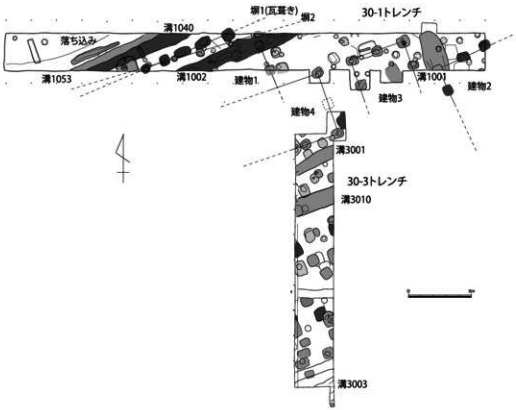
30-1トレンチ西部で塀跡１基（塀２）、30-1トレンチ東部で建物跡２棟（建物３・４）、30-3トレンチで大型柱穴列2基を検出している。塀２は、９世紀中葉段階の空白期を挟み前段階の塀１から継続する方形区画の北限を示す区画施設である。柱穴が小型化していることなどから、板塀と考えられる。区画内部となる30-1トレンチ西部や30-3トレンチでは、建物3.4や大型柱穴群が存在することから、区画施設とともに内部の建物群も継続していると考えられる。建物3.4は、柱穴下部に柱根が遺存するが、抜き取り穴上部に限って石材が多く挿入されている。検出状況からみて、この石材は礎石下部の根石と考えられ、建物３・４における掘立柱建物から礎石建物への改変を示すものとみられる。建物３・４は、礎石の使用が想定できることや、周辺から多量に出土した古瓦から瓦葺き建物と考えられる。また、この柱穴上部の石材の使用状況は、30-3トレンチの大型柱穴列においても確認することができる。

平安時代末葉から鎌倉時代（11世紀～13世紀）

30-1トレンチ東部、30-2トレンチ全域において、直径約20cmの円形柱穴による掘立柱建物跡を４棟検出している。また、30-2トレンチにおいては、建物に伴う区画溝１条や井戸跡１基を検出しており、既往の調査においても多く確認されている讃岐国府末期の屋敷地群を検出している。各建物の規模は明らかにできていないが、当該期の国府内に集合して営まれた屋敷地群の景観を復元する材料が得られた。

⑤まとめ

今回の調査は、讃岐国府推定地南部において、奈良時代から平安時代に継続して営まれた方形



平成24年度調査30-1・30-3トレンチ平面図

第13図　讃岐国府跡　調査区平面・区画想定範囲

区画や、平安時代末葉から鎌倉時代の屋敷地を確認するなど、多くの成果を挙げることが出来た。奈良時代から平安時代の方形区画は、地形からみて、一辺が最大で約70mの規模となることが推定される。区画施設は瓦葺きの掘立柱建物塀から板塀の変遷を辿るとともに、その内部に展開する建物も区画施設と同様に継続して営まれており、その中には礎石をもった瓦葺き建物が含まれると考えられる。

他地域の国府の調査事例からみて、瓦葺きの塀によって区画される空間は、国府域においても国庁の中心施設に限られることが知られている。また、既往の調査によって検出された古代期の遺構の広がりや瓦の分布状況、硯や緑釉陶器などの出土量を考慮すると、今回の調査成果により、讃岐国府の所在地が確定したものと考えられる。

今後も発掘調査を継続し、方形区画の詳細な規模や内部の建物配置の確認を行い、国庁としての機能の確定やより適切な保護措置を検討していく必要がある。

写真22　30－1 トレンチ建物2、3全景

写真23　30－1 トレンチSD1002、1040全景

香川県埋蔵文化財センター年報

平成 24 年度

平成 25 年 9 月 30 日　発行

編集・発行　香川県埋蔵文化財センター
〒762－0024
香川県坂出市府中町南谷 5001 番地の 4
電　話（0877）48 － 2191
ＦＡＸ（0877）48 － 3249

印　　刷　株式会社 中央印刷所